

道徳における生徒の自己評価を生かした記述式評価と授業力の充実（2年次）

—生徒の真情に迫る道徳の記述式による評価と授業力向上への手立て—

中山 芳明（京都市総合教育センター研究課 研究員）

昨年度は道徳教育の評価を中心に研究し、生徒の道徳性の成長を見取るシステムとして、PDCAサイクルを組み込んだ「生徒による自己評価を軸に据えた運用システム」を実践し、検証した。またそれと関連して、「持ち回り道徳」の運用方法の整理から、良質な教材の確保と指導力の向上をはかる取組を行い、有効性が実証された。

今年度は昨年度の研究を受け、更に実用性と運用効果の高いシステムの構築を目指し、「評価に妥当性を持たせるための自己評価の精度向上」「記述式による評価のモデル作成と検証」「OJTを組み込んだ授業力向上への発展」に取り組み、システムの運用効果と実用性を高めました。

第1章 道徳における生徒の自己評価

第1節 1年次の実践から

1年次の研究では、生徒による自己評価を、学習深化を尺度で表す「尺度での振り返り」と、「記述での振り返り」の二つの方法で見取ることとした。道徳の評価が「個人内評価」であることを実現するために、いわゆる「5, 4, 3, 2, 1」などの尺度で測る「ルーブリックの思想」を生徒の自己評価に応用した。また、生徒自身が自己の道徳性の成長を測定することを考え、更に綿密な見取りを行うために、文章による記述方式も併用した。

このように尺度と記述による振り返りで自己評価させ、その記録を残すことで、大きく向上したのは以下の三点である。

- ① 自己評価の分析から深まる生徒理解
- ② 記述式による評価の基礎構築
- ③ 教師の授業力向上への活用

これらの成果から、さらに道徳科の運用システムを向上させるための手立てを行うこととした。

第2節 2年次に繋げる研究課題と目標

それぞれの成果を踏まえた上で、成果をより向上させるため、以上の三点の課題を設定した。

- ① 自己評価の適切性の担保
- ② 記述式による評価についての受止め調査
- ③ 教師の授業力向上への具体的方策

第2章 自己評価システムの発展

第1節 評価の概念の整理

評価が担っている、「生徒を育てる」という本来の役割を念頭に、生徒自身に学びの目的に対しての成長と課題を自己認識させることが最も重要なことである。

第2節 自己評価システムの改善

2年次に向けて以下の六項目を設定した。

- 1a 道徳で22ある内容項目の事前セルフチェック①
- 1b 評価基準のルーブリックの作成①
- 2a 記述式による自己評価の実用化②
- 2b 評価を受けての生徒・保護者の意識調査②
- 3a 授業展開・手法の見直し③
- 3b OJTによる授業力向上への手立て③

更に、この六項目を自己評価循環の構造図に補充・整理・発展の取組を加え、自己評価から生じる好循環の発展構造図(図1)へ改訂した。

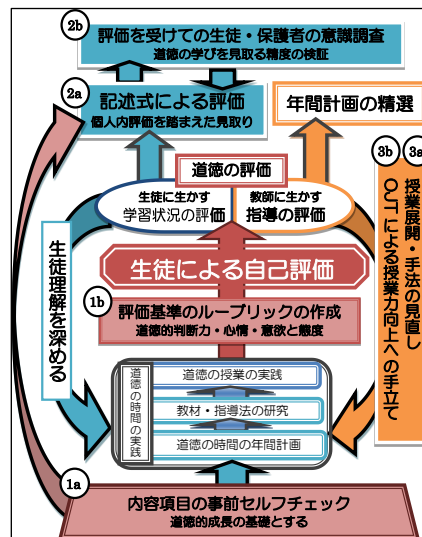


図1 自己評価から生じる好循環の発展構造図

これらは発展構造図中の循環で互いに密接に関係し、相互に影響を及ぼし合っている。そのため、道徳における生徒の自己評価の精度が上がることで、記述式の評価や指導の評価に効果を与えるなどが見込まれる。それぞれの改善が連動し、相互に効果を及ぼし合うことで全体の強化が図られ、教師・生徒・保護者の三者が協調して道徳に取り組むことで、大きな成果が生み出されると考える。

まず作成したのが事前セルフチェックシート(図2)である。道徳の22ある内容項目について、教材の様相を含

分類	内容項目	概要	とても	一	ふつ	一	全然
A 主として自分自身に関すること	A(1) 自主、自律、自由と責任	自分自身で考え、判断し、結果に実行してその結果に責任をもっている	5	4	3	2	1
	A(2) 態度、節制	きちんと生活し、心と体の健康と態度を守り、実直な生活をしている	5	4	3	2	1
	A(3) 向上心、個性の伸張	向上心を持ち、個性を伸ばして充実した生き方をしている	5	4	3	2	1
	A(4) 希望と勇気、敗北と強い意志	より高い目標と希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越える意志を持っている	5	4	3	2	1
	A(5) 真理の探究、創造	真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出すようとしている	5	4	3	2	1
B 主として人との関わりに関すること	B(6) 思いやり、感謝	思いやりをもって人と接し、人々の支えに感謝し、進んでそれに応えようとしている	5	4	3	2	1
	B(7) 礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた行動をしている	5	4	3	2	1
	B(8) 友情、信頼	友情や信頼について理解し、互いを高め合うとともに、頼りもかけない人間関係を築いている	5	4	3	2	1
	B(9) 相互理解、寛容	自分の考えを相手に伝え、いろいろな価値観の方を尊重し、謙虚に受け止め、自らを高める	5	4	3	2	1

図2 事前セルフチェックシート(一部) まない、純然たる生徒の意識を把握し、授業での自己評価との比較を行う際の資料とした。

また、自己評価を行う際の緩やかな評価基準の指標と成るためのループリック(図3)も作成した。

要素	ワークシートの記述	高い効果 5	4	普通 3	2	低い効果 1
道徳的 判断力	(今日の価値をよく理解し、これからの考え方や判断に影響はあったか)	価値をよくわかり、他の状況でも判断できようになった	価値をわかり、判断できるようになった	価値の大切さや内容がわかった	価値の大切さを感じた	価値の大切さや考え方にまだ課題を感じた
道徳的 心情	(今日の価値の大切さを感じ、生き方への感動はあったか)	自分の生き方に影響を及ぼすほど感動した	価値の大切さを感じ、よりよく生きたいと感じた	何かを感じたが、生き方への影響はなかった	何かを感じた	心情に流されず、心への響きを感じなかった
道徳的 実践力	(学んだことを踏まえ、よりよく自分自身に生かしているか)	自分の人生の中で、進んで実践していると感じた	普段から心がけたいと感じた	機会があれば行いたいと感じた	実践に移すにはまだ必要がある	実践に移すにはまだ必要がある
教材 理解	(今回の学び(1)教材はよかったか)	価値を理解するのに、この教材はとて	今回の価値を学ぶのにこの教材は適していた	この教材から今回の価値を学ぶことは可能だと感じた	この教材から今回の価値には考えにくかった	この教材から今回の価値にはつながらなかった

図3 生徒による自己評価のためのループリック

生徒による自己評価は本来、評価活動ではなく、学習活動である。そのことを踏まえつつ、道徳の評価で「成長を認め、励ます個人内評価とする」ことを念頭に、すべての尺度で肯定的に捉えた生徒の学びの姿を想定した。

第3章 研究協力校での実践

第1節 学習状況の評価に関する実践

まず、研究開始時点で、研究協力校の二校でセルフチェックシートを実施してもらった。

次に五段階で分類したすべての尺度に対して、肯定的な姿を見取る整理(図4)を作成した。

要素	高い満足度、達成感 4	1	新たな発見、向上心 2	2	課題意識、批判精神 3
道徳的 判断力	道徳的価値をよく理解していた。 様々な状況にも考え及び、人間的にどう生きるべきかの判断も持てました。 価値の価値に正しい選択する意図を持てました。 価値についてきちんと判断できる力が付いた。	道徳的価値をよく理解できました。 価値の価値に正しい選択する意図を持てました。 価値についてきちんと判断できる力が付いた。	道徳的価値の大切さを感じ、自分の課題に気づくことができました。 道徳的価値の様々な価値を感じ、価値を大切にしたいという意図を持てました。	道徳的価値の大切さを感じながら、現状での難しさに思いをはせていました。 理想と現実との差を強く感じ、どうも真なるべきだという意識を持てました。	現状の自らのどう生きるかなど判断において、実際に考えながら進んでいました。 できていない課題を直し、どうすればよいかの意識を持って進んでいました。
道徳的 実践力	価値について高い次元での実践が行われました。 自分自身の立場や状況も考慮して、主体的に正しい行動を判断する意図を持てました。 自分の行動を振り返って考えられるよう成長しました。 自分だけの意見だけでなく、周りの意見も参考に判断する大事に気づきました。	相手の立場や状況を理解して判断する意図を持てました。 自分の行動を振り返って考えられるよう成長しました。 自分の意見だけでなく、周りの意見も参考に判断する大事に気づきました。	一つのことで様々な立場や考えがあることに触れることができました。 教材の内容を理解できました。自分の課題について向き合うことができました。 他の意見から新しい発見がもたらされました。	自分の考えの甘さに気づき、まだ向上できる余地を感じていました。 教材の内容について様々な価値を探り、真実を見極めようという意識で授業に臨んでいました。 自分の意見をしっかりと言っている過程であり、よく自分と向き合っていました。	認識の甘さに向き合い、より判断力向上できる種々の課題を認識して進んでいました。 課題の直しに向き合ってきた。未だにできていないことは何かを指摘し、改善の意図を持って進んでいました。 善悪の判断の難しさを実感し、道徳の教えをおし進んでいました。

図4 自己評価をループリックで整理(一部)

生徒の成長を積極的に受け止めて認め、励ます評価になるように、また、尺度による自己評価が単純に優劣を示すものでないとする立場から、すべての尺度に潜在する生徒の前向きな姿勢の可能性を考え、見取る姿をループリックで整理した。

さらに今年度は一時間の授業の振り返りに加え、大きな期間のまとめ振り返りも実施した。その際には期間中の授業内容をまとめたもの(図5)を

番号	教科名(出典)	テーマ	主な内容や考えたこと(中心発問)
1	道徳	道徳の探究、創造	「道徳はいつもひらかれている」
2	奇跡の育番号1	よりよい学校生活、集団生活の充実	「奇跡の育番号1」
3	りんごの何を食べるのか	節度、節制	「りんごの何を食べるのか」
4	町内会デビュー	自主、自律、自由と責任	「町内会デビュー」
5	憲文〜衆子様〜	友情、信頼	「憲文〜衆子様〜」
6	ヤクワバとライオン	公正、公平、社会正義	「ヤクワバとライオン」

図5 期間内の授業まとめ(一部) 配布し、確認しながらまとめ振り返りシートによる振り返りの学習活動を行った。これらの評価材料を基に記述式評価の試行を行ったわけであるが、その際に評価の指針となるべきものが必要と考え、道徳の三様相(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度)の取り扱い、授業の様子の分類などの「型」を提案し、実践した。

第2節 指導の評価に関する実践

自己評価による傾向分析から、道徳の指導において、従来の読み物教材で行ってきた授業プランから、AL(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業プランへの見直しの実践を行った。

第4章 実践研究の成果と今後の展望

第1節 実践研究で見たこと

作成した記述式評価の試行を、生徒・保護者に開示して、その記述への受け止め(図6)を調査した。その結果、「満足」「やや満足」

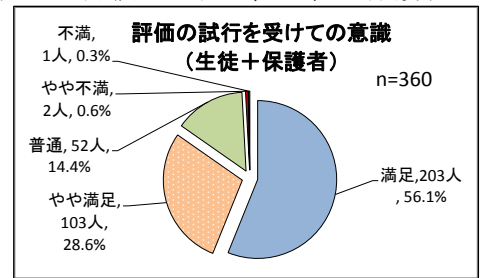


図6 評価の試行を受けての意識(生徒+保護者)を合計した割合で8割を超え、十分な理解を得た結果となった。

第2節 今後の評価導入に向けての展開

道徳の記述式評価を導入するにあたり、重要と感じた「どこまでを記述するのか」「どれについて記述するのか」「自己評価からどう読み取るのか」「評価材料をどう収集し、活用するのか」の四点について整理を行い、現行の運用にも応用可能な形で、道徳のまとめを円滑に導入できるシス